

トレーラー等を利用して、これを集約取扱の傾向が多く、大都市付近では1~2箇所の集中小口扱貨物駅を設け、これを母体として都内適当な位置に集配所を設けて、ここで荷主の荷物を引きとり整理して小口扱貨物駅に持込み、他の集配所より持込まれた貨物といっしょにして貨車に積込まれるようにする。この

方法は英國およびフランス国鉄において発達している。フランスでは小口貨物輸送の迅速化を図るため全国を幾多の地区に分割して、地区内に小口扱の主要駅を指定して急送小口貨物列車を扱い、中間小駅に対しては小運転列車またはトラックで小口貨物を集配している。

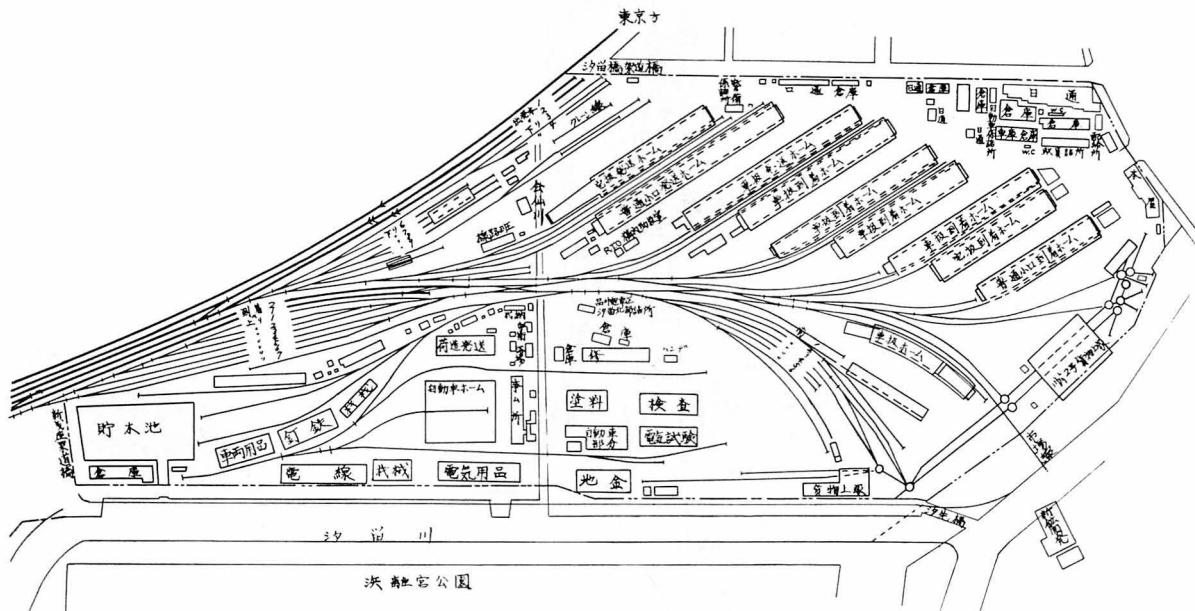
貨物駅の設備はその駅の性格によって異なるが、一般には貨物駅本屋および貨物扱所、貨物積卸場、貨物保管庫、計重台、貨車洗浄場、貨車検査設備等が設けられる。駅本屋および貨物扱所は貨物駅における業務管理、輸送貨物の取扱および運賃の計算収受等を行う場所で、主として鉄道職員が執務する場所である。その位置は荷主または運送業者との連絡に便利な場所で、同時に構内作業との連絡にも便利な場所が望ましい。

貨物積卸場は貨車と小運送機関との間にあって貨物の積卸しを容易ならしめ、かつ貨物を一時留置する設備である。貨物積卸場には貨物ホーム、地平積卸場、縦ホーム、水扱ホームおよび積卸場等がある。貨物積卸場の所要面積は貨物の取扱数量・種類・単位面積当りの留置数量および留置時間等により決定される。平均留置トン数は第3表のようである。



1. 貨物駅 (汐留駅)

2. 貨物駅平面図 (汐留駅)



3. 貨物駅 (梅田駅) 手前は大阪駅高架橋